

教科等研究会（小学校音楽部会）

平成29年度 研究活動のまとめ

1 研究テーマ

「音楽のよさを感じ取り、生き生きと表現できる子どもの育成」
（仮説）音楽を形づくっている要素に気づき、それらが生み出すよさや面白さなどを感じ取る活動を位置づければ、自分の思いや願いをもって、生き生きと表現できる子どもが育つであろう。

2 研究経過

第1回			第2回			第3回			第4回		
期日	人数	場所	期日	場所	実技 研修会	期日	場所	授業者 北野光湖 教諭	期日	場所	授業者 塚本美雪 教諭
5/25	16名	広安小	8/2	広安小		11/2	甲佐小		1/26	飯野小	

3 研究の概要

（1）研究の内容

① 本部会の研究テーマの考察

学習指導要領において、音楽のよさや楽しさを感じるとともに、思いや意図をもって表現したり味わって聴いたりする力を育成するために、音や音楽を知覚し、そのよさや特質を感じ取り、思考判断する力を育成することが一層重視され、これまで学習の充実が図られてきた。

「音楽のよさを感じ取る」とは、音や音楽を形作っている要素（共通事項）とその働きで捉え、それらの価値を確認することである。新学習指導要領の中でも、これらを「音楽的な見方・考え方」を働かせることと位置づけ、この見方・考え方を通して、音楽科の資質・能力を育成するものと明記されている。

「思いや願いをもって表現する」とは、共通事項をもとにして表現に対する明確な考えをもち、歌ったり演奏したりするということである。また、主体的に他者と協働する中で自分の考えをより深めたり再構築したりしながら豊かに表現することは、まさに「生き生きと表現する」姿であると考えている。音楽を特徴づけている要素や音楽の仕組み（共通事項）をもとにすることにより、音楽のよさや美しさを感じ取り、音楽への思いや願いをもって豊かに表現できる子どもの姿を目指し、本研究テーマに設定した。

② 研究の実際

ア 実技研修会

「箏の基本的な奏法について」

講師：生田流宮城社師範

益城町文化協会副会長

養田 由美子先生



新学習指導要領の小学校音楽科の改訂の一つに、和楽器を含む我が国や郷土の音楽の学習を充実させていくものとなった。学習内容としては、中学年から和楽器が旋律楽器の例示に加わり取り扱っていくとなっている。そこで、比較的、扱いやすい

箏の実技研修を行うことにした。和楽器に実際に触れながら、奏法について学ぶだけでなく、和楽器の音色のよさや美しさ、演奏の楽しさなどを直に感じる事ができた。また、来年度から具体的にどのような和楽器を音楽科学習の中に取り入れ、児童に慣れ親しませていくかといった実践方法についても一緒に

考える機会になった。

イ 研究授業① 第4学年「かけ合いや重なりのおもしろさを味わおう ～もみじ～」

指導者 甲佐町立甲佐小学校教諭 北野 光湖先生

本題材では、情景を思い浮かべ、音楽の要素や仕組みに着目させて表現を工夫させていく学習であった。表現の工夫の段階で適切に言語活動を取り入れたことで、児童一人ひとりの思いや願いが生かされた授業であった。また、電子黒板やタブレットPCといった機器に児童相互の考えを反映し合ったり、これらを媒体として伝え合ったりするなど、ICT機器を効果的に活用することもできていた。

ウ 研究授業② 第4学年「音楽のききどころ ～ノルウェー舞曲第2番～」

指導者 益城町立飯野小学校教諭 塚本 美雪先生

本題材は、曲全体の雰囲気を感じ取って聴いたり、曲の流れの変化について音楽を形づくっている要素を手がかりに聴き取ったりすることをねらいとした学習であった。舞曲であることに着目して、身体表現を取り入れ、自分たちの踊りと音楽を形づくっている要素を関連付けて考える姿があった。速度や強弱などから生み出される音楽の面白さを存分に味わうことができていた。

(2) 成果と課題

(成果)

- 自分の考えをもとに、グループや全体で考えを共有し合い、生き生きと表現する子どもの姿があった。学習の後半に、子どもたちから、「音楽が楽しい」というつぶやきがあった。
- 新学習指導要領への移行を視野に入れた学習のあり方について学ぶことができた。実際に和楽器に触りながらその楽しさや今後の指導への手ごたえを感じることができた。
- 研究授業では、同一学年の「表現」と「鑑賞」に絞ったことで、領域が偏ることもなく、視点を絞ってより深く研究することができた。事前に模擬授業を取り入れたことで、実際の授業をイメージすることができたので良かった。(来年度は高学年の研究も取り入れたい)

(課題)

- タブレットや電子黒板を使った指導をみることができたことはとても良かった。来年度は、音楽科でICT機器を効果的に活用することを研究テーマに盛り込んでみてはどうか。
- 毎年、年度末の反省等を生かし、研究や取組はより一層充実させてきているのを感じている。一方で、会員が減ってきているので、来年度に向けて呼びかけ等行っていく。
- 事前研究会へ会員が参加しやすいように、今後も開催日や時間等を工夫していきたい。

4 実践事例

(1) 授業の概要

第4学年歌唱「もみじ」

指導者 甲佐町立甲佐小学校教諭 北野 光湖先生

(授業研究会より)

- 子どもたちは音楽が好きだが、歌声となると以前はただ声を出しているという歌い方だった。今回の学習で、歌詞や曲想をイメージしながら歌い方を工夫したり歌声づくりをしたりする姿があって良かった。
- 一人学びからグループ、そして全体での発表という学びのサイクルが確立されており、その中でICT機器が効果的に活用されていた。特にグループ活動では、個々の思いを生かすことができるツールだと改めて感じた。
- もみじの世界観に浸らせるために、前時にその風景写真などを見せていたことが良かった。本時の中で、子どもたちの想像が広がっているのを感じた。
- 話し合いは丁寧に行われていた。その中で、歌うことにも十分に時間をかけると、さらに子どもたちが曲の良さや美しさに浸ることができたであろう。
- 今回の授業のように、前時まで学習したことを生かし、音楽的な見方・考え方を働かせて表現することで、さらに学びが深まっていくと感じた。

(2) 学習指導案

1 題材名 かけ合いや重なりのおもしろさを味わおう
教材：「もみじ」

2 題材について

(1) 題材観

本題材は、文部省唱歌として、日本の代表的なもみじの美しさを歌った曲として、歌詞の情景を思い浮かべ、さまざまな旋律の重なりや響き合いを感じて合唱することをねらいとしている。

本題材は、山を彩るもみじの散り浮く様子をイメージしながら表現できるように、実際のもみじの映像や写真を見せ、声の響きや旋律の重なりに生かしていく音楽的感性を伸ばしていきたい。また、鑑賞教材として、『水上の音楽』から「アラ ホーン パイプ」を扱う。楽器による呼びかけや音の重なりに気づき、構造を理解することで、もみじのパートごとのかかわり合いに生かしていきたい。

本題材で身につけた力は、様々な楽曲を表現する際に、曲想に応じた表現の仕方を自分たちで工夫するときに、思いや願いを音楽的要素に結び付けて捉え、表現することができると思われる。

(2) 学級の実態 (男子18名 女子12名 計30名)

本学級の児童は、表現活動になると、意欲的に参加しようという態度が見られることが多い。音楽では、特に歌うことが好きで、朝の会や音楽の時間の歌唱では、自然に体を動かして歌う姿が見られる。音楽を形づくる要素を意識して歌い方を工夫している児童も数名いる。しかし、思いは持っていたとしても、適切に表現することの難しさや、どう表現したらいいのかわからないという思いを感じている児童も多い。本題材において、自分の思いを、音楽を形づくる要素と繋ぎ、表現に生かすことができるようにしたい。

(3) 指導上の留意点

- 音楽の要素に着目させるために、鑑賞教材で共通事項を学習し、それを歌唱に生かしていくようにする。
- 歌唱の工夫を考える際は、紅葉の画像や映像を児童に見せ、自分が表現したいもみじをイメージしやすくする。
- 学習した共通事項を掲示し、児童が表現を考える際にふり返ることができるようにする。
- 児童の思いを歌唱に生かしていくために、タブレットを導入し、譜面に自由に書き込みができるようにし、表現の工夫を考えさせる。
- 二部合唱では、それぞれのパートが互いの旋律につられないように力んで歌ってしまい、歌声が響き合わないことがあるため、どちらも正しい音程をつかませた上で指導していく。

3 目標

- ・ 歌詞の内容から情景を思い浮かべ、曲想を生かして表現する。
- ・ 旋律の重なりや声の響き合いを感じ取って合唱する。

4 指導計画 (4時間) (抜粋 第1次は省略)

時	○主な学習内容・学習活動 (共通事項)	評価規準【方法】
1	曲全体の感じをつかんで、情景を思い浮かべて主旋律を歌う。 (旋律)	模唱を聴き、情景を思い浮かべ、主旋律をなめらかに歌っている。【楽譜シート・行動観察】
2	互いの思いや願いを伝え合い、情景を思い浮かべ、主旋律を工夫して歌う。 (速度・強弱)	互いの思いや願いを伝え合い、旋律の重なりを感じ取りながら、強弱を工夫し、思いをもって歌っている。【楽譜シート・発言内容】
3	主旋律との重なりに気を付けて、下声部のパートを覚えて歌う。 (旋律)	模唱を聴き、主旋律との違いを意識して、下声部をなめらかに歌っている。【表情観察・行動観察】
4	旋律の重なりを感じ取りながら、情景を思い浮かべて合唱する。 (旋律・音の重なり)	音楽表現のよさを確かめながら、友だちとの声の響き合いを楽しみ、情景を思い浮かべて合唱する。【表情観察・行動観察】

5 本時の学習（第2次・第2時）

(1) 本時の目標

- ・ 情景を思い浮かべ、互いの思いや願いを伝え合い、主旋律を工夫して歌う。

(2) 本時の展開

展開	時	学習活動と予想される児童の反応	●指導上の留意点（☆評価）
導入	5分	1 前時で録音した歌声を聴く。 C: まあまあ。もうちょっと練習しよう。	● 前時までの歌声を聴き、児童の学習への気持ちを高める。
	20分	2 本時のめあてを知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">情景を思い浮かべ、「〇〇なもみじ」になるように合唱を工夫しよう。</div> C: できそう。みんなで話し合ってみよう。	
	15分	3 グループごとに「〇〇なもみじ」を表現するための、歌の工夫点を考える。 ○ 「〇〇なもみじ」になるための、歌うときの工夫点に書き込む。 C: ここは、きれいに歌うってしたよ。 C: 私は、明るく歌うことにしたい。 ○ グループごとに歌ってみる。 C: もっと、ここはなめらかに歌おうよ。 C: よし。もう一回歌ってみよう。	● 主体的に活動に取り組めるように、学習の流れを確認しておく。 ● 歌詞や旋律、情景を思い浮かべ、どんなもみじを表現したいのかを考える。 ● 楽譜シートに工夫を書き込むことを確認し、皆でより良い演奏をするという意欲を持たせる。 ● グループごとの考えを共有できるように、タブレット PC 上に楽譜を取り込み、自由に書き込みをするように促す。
5分	15分	4 グループごとに歌うときの工夫点を伝え、皆で歌ってみる。 ○ グループで考えた歌うときの工夫を全体に伝える。 C: クレッシュェンドしながら歌います。 C: 最後まで音を切らずに歌います。 ○ 感想を交流し、良かった点を伝え合う。 C: 明るくて良かった。 C: しっかり伸ばして歌っていた。	● 電子黒板で、発表グループの考えを提示することで、視点をもって歌ったり聴いたりするように促す。
	5分	5 工夫を生かし、もみじを合唱する。 6 本時の学習を振り返り、次時の学習について知る。 ○ 学習後の変容について気づいたことを発表する。 C: もっときれいなもみじを歌えるようになったことです。 C: 前よりも声をはっきりと歌えるようになりました。 C: 先生！音楽って楽しいですね。	● 各グループで考えた工夫を生かし、「色とりどりのもみじ」を歌うイメージを持たせて歌わせる。 ● 友だちの良かった発言なども発表させる。

☆評価
B 評価：互いの思いや願いを伝え合い、歌い方を工夫している。
A 評価：互いの思いや願いを伝え合い、曲の山場を捉え、歌い方を工夫している。
【音楽表現の創意工夫：楽譜シート・発言内容】